

紅緑思い 句碑前に朗読

弘前

弘前市出身の作家佐藤紅緑
(1874～1949)の命

日に当たる3日、弘前文学会が、同市の朝陽小学校にある紅緑の句碑の前で作品を朗読し、顕彰の思いを新たに



弘前文学会 朝陽小で「あ、玉杯に一」

た。紅緑の母校である朝陽小には、「雀の子飛ぼんとしては飛ぼんとす」と刻まれた句碑のほか、「陽気に元気に生き」との文学碑が建てられている。

同日は、同会代表の後藤隆さん(71)が紅緑について、陸羯南(弘前市出身)や正岡子規との交流、雑誌「少年俱樂部」編集長加藤謙一(同)とのエピソードなどを紹介。会員たちが、野球に熱中する少年らの姿を描いた小説「あ、玉杯に花つけて」を朗読した。弘前文学会は、各地の文学碑を巡り、作家の命日に合わせてその業績を振り返る「文学忌」活動を行っている。後藤さんは「碑を建立した人たちの思いを、次の時代につなげていきたい」と語った。

(太田佳希)

紅緑の句碑(左奥)の前で、作品を朗読する会員

東奥日報社 令和3年6月5日掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです